

新基地建設反対名護共同センターニュース

遺骨交じりの土砂を辺野古に埋めるのは 戦没者と遺族を冒瀆する人道上の問題

ガマフヤー具志堅さんらのハンスト続く

初日の1日には、具志堅さんのほかに宗教者や辺野古新基地建設反対で座り込みを続ける名護市の島袋文子さんなど支援者50人ほどがテントの周囲で見守っていました。島袋さんは「沖縄戦で戦火を逃げ惑った壕の中で、すくって飲んだ水は死者の血で赤く染まっていた」という壮絶な戦争体験を交えながら「政府は戦死者を2度殺そうとしている。沖縄に寄り添うというが踏み潰している」と話しました。

沖縄に寄り添わず「踏み潰す」菅政権

辺野古新基地建設を巡り本島南部からの土砂採取断念を求めている沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さん(67)や宗教者、支援者らが1日、県庁前の県民広場でハンガーストライキを始めました。6日まで抗議の意思を示し、政府・防衛局に土砂採取計画の断念を求めています。具志堅さんは「戦没者の遺骨が眠る土砂を埋め立てに使うのは、戦死者と遺族を冒瀆するもので新基地の賛否以前の人道上の問題だ」と話しました。県政与党の県議らが連帯の挨拶を行いました。



「沖縄戦を埋めるな」のパネルを掲げるハンスト支援の女性



ガマフヤー代表 具志堅隆松さん



ハンガーストライキには、多くのメディアも注目し取材していました。具志堅さんは、各社のインタビューに丁寧に応対していました。

違法工事やめろ！遺骨を辺野古に埋めるな！ ゲート前の抗議再開、4日は各地島ぐるみから100人



「オール沖縄会議」は2月28日に沖縄県が緊急事態宣言を解除したことを受けて3月2日(火)からキャンプ・シュワブゲート前での抗議活動を再開しました。4日は本来なら「サンシンの日」でゲート前も三線演奏や琉舞、カチャーシーなど文化祭さながらの行事が予定されますが今年は昨年につきコロナ禍のため中止に。しかし、沖縄市、うるま市、西原町など各地島ぐるみから100人余がゲート前に集まりました。「オール沖縄会議」の共同代表に新たに就任した糸数慶子前参院議員が「遺骨の混じった土砂を辺野古の海に埋め立てることは人道上許されません。具志堅隆松さんの思いに連帯し、声をあげていきましょう」と訴えました。新垣邦男衆議院沖縄2区予定候補も挨拶しました。



挨拶する糸数慶子前参院議員